

目器

徳川家康公（1542-1616）が晩年に所有していたべっ甲製の眼鏡である。鼻の上に乗せたり、手で固定したりしていたようだ。17 世紀の日本では眼鏡は珍しかったので、輸入品である可能性が高い。スペインかポルトガルから贈られたものではないかと言われている。あるいは、日本製で、九州のガラス職人がレンズを研磨したとも推測されている。

また、京都の公家が 1593 年に家康から眼鏡をもらったと日記に書いていることから、家康は少なくとも一個の眼鏡を贈ったことが知られている。

重要文化財